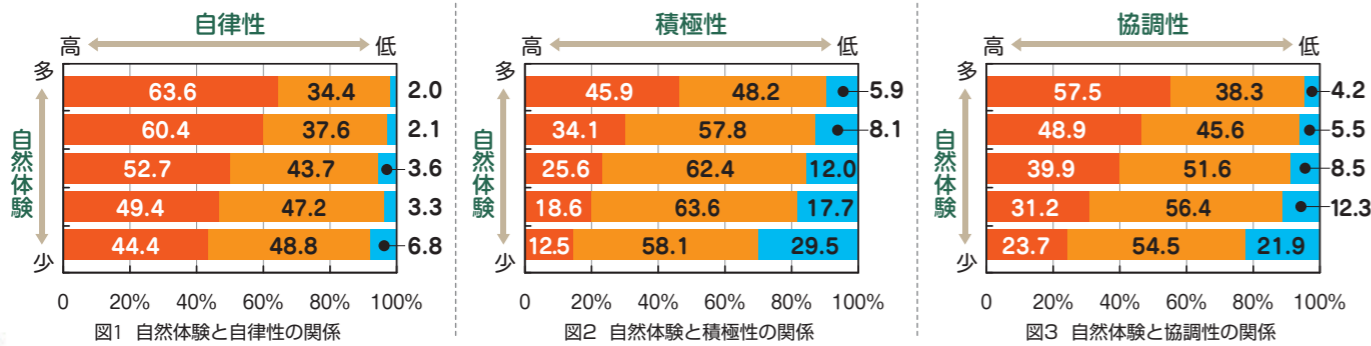


子供の頃の体験は豊かな人生の基盤になります!

国立青少年教育振興機構の調査では以下のことが明らかになっています。

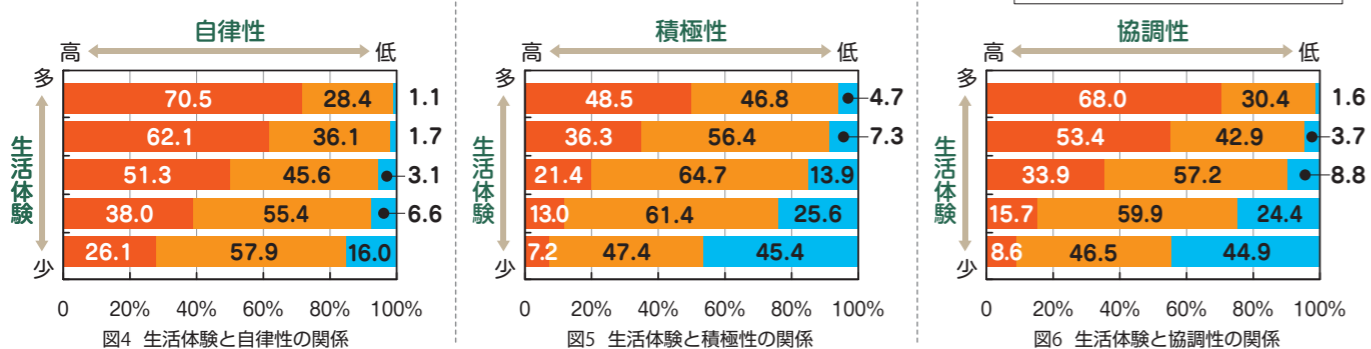
自然体験が豊富な子供ほど、自立的行動習慣が身についています。

自然体験と自立的行動習慣の関係について分析したところ、自然体験が豊富な群ほど「自律性」「積極性」「協調性」高得点群の割合が高くなる傾向がみられました(図1~3)。(調査対象:小4~小6、中2、高2)



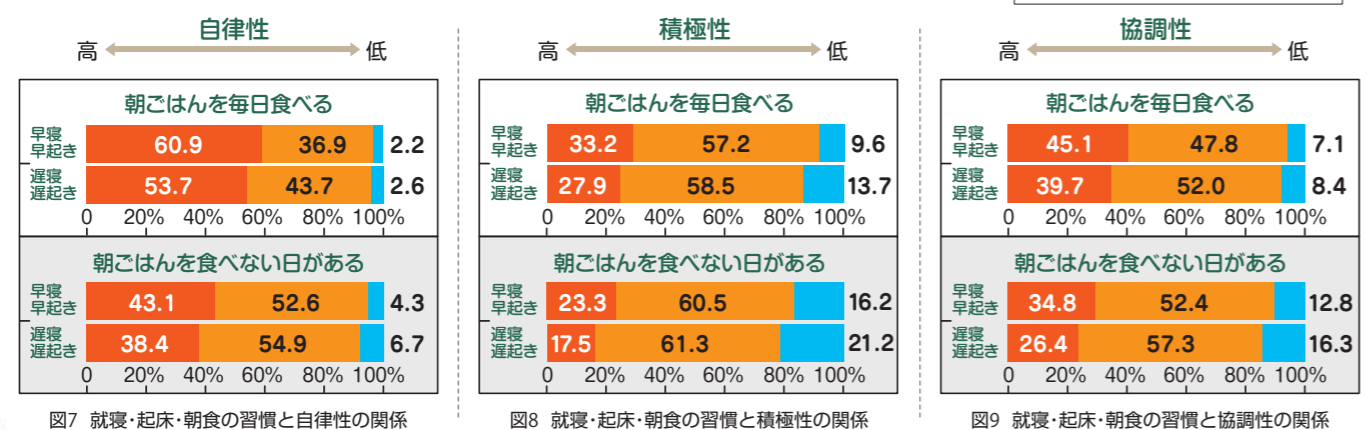
生活体験が豊富な子供ほど、自立的行動習慣が身についています。

生活体験と自立的行動習慣の関係について分析したところ、生活体験が豊富な群ほど「自律性」「積極性」「協調性」高得点群の割合が高くなる傾向がみられました(図4~6)。(調査対象:小4~小6、中2、高2)



「早寝早起き朝ごはん」を行っている子供は、自立的行動習慣が身についています。

就寝・起床・朝食の習慣と自立的行動習慣の関係について分析したところ、「早寝早起きで朝ごはんを毎日食べている」群が、「自律性」「積極性」「協調性」高得点群の割合が最も高くなりました。一方、「遅寝遅起きで朝ごはんを食べない日がある」群は、高得点群の割合が最も低くなりました(図7~9)。(調査対象:小5、中2、高2)



出典:国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査(平成28年度調査)」

このように、自然体験や生活体験が豊富で「早寝早起き朝ごはん」を行っている(基本的生活習慣が身についている)子供ほど、「自立的行動習慣(自律性・積極性・協調性)」がしっかり身につけていることが見て取れます。

そして他の調査項目の結果を見ると「自立的行動習慣」がしっかり身につけている子供ほど、

- 自己肯定感が高い ●携帯電話・スマートフォンの利用時間が短い(→読書時間が長い)
- 心身の疲労を感じる事が少ない

等、良好な傾向を示しています。これらの調査結果から、

子供たちの健やかな成長には自然体験・生活体験が重要であることがわかります。

地域ぐるみで

体験の風をおこそう

「体験の風をおこそう」運動とは、子供たちが様々な活動を体験しながら心身ともにたくましく成長していけるよう国立青少年教育振興機構と関係団体とが連携して推進している運動です。

毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定めています。



群馬県からっ風「体験の風をおこそう」運動実行委員会